

男性における社会的攻撃性 ～社会的地位に依拠する攻撃性～

成城大学大学院文学研究科
コミュニケーション学専攻

柴 又 彬

第1章 イントロダクション

1) 調査までの経緯

2011年度の大学院のゼミに於いて、Rachel Simmonsの*Odd Girl Out: The Hidden Culture of Aggression in Girls* (2002) という、女子における、隠れた、沈黙の攻撃行動について記された初めての本、といったふれこみだった書をゼミ担当の教授から紹介された。著者は、実際に、数百人への各種インタビュー調査に基づき、そのような隠れた攻撃行動の実態を、リアルにその本の中で記述していた。筆者が大学院に入学する前年度からゼミ内ではこの分野に関する関心が高かったようで、書籍や学会での発表などの検討があったようだ。筆者が入学後も引き続き、文献や映像資料での検討があり、筆者を始め、ゼミ所属の大学院生が今回の研究テーマに興味関心がさらに強まった為、小規模な社会調査を、大学院生4名・ゼミ担当教授1名の5名で実施することになった。

2) 予備調査実の概要と本調査の実施

1. 予備調査の概要と結果

文献・映像資料の検討は筆者の大学院入学後もしていた事も影響して、2011年6月まで行っていた。その為、同年7月中を使って調査方法を確定し、2週間程度の簡単なプリテストを実施した。プリテストの回答を集計した時点で、日本においても社会的攻撃性が行われているのではないかと考えられる回答が集められてきた。それを受けて、再度、大学院生・担当教授と共に質問紙を検討し、調査期間と調査対象の範囲を確定した後、同年8月1日から10月7日ま

でを調査実施期間として、実査を行った。

2. 本調査の方法と日程

今回の調査は、予備調査を含みインターネットのウェブページを用いたウェブ調査の手法を利用することにした。これは、回答の集計を大学院生と担当教授の少人数で行った為である。さらに、インターネット環境に不慣れな回答者にも対応してもらう為、同一の質問票の、ペーパー版（資料2、単純集計結果付）も用意して、各自の判断で併用することにした。筆者が行ったのはウェブページを用いたウェブ調査のみであるが、それでも後述するような問題は多少あった。

ウェブ調査の具体的な方法であるが、資料2に添付した内容の質問を、ゼミ担当教授がウェブページ形式で作成して、教授の利用しているレンタルサーバー上に、アップロードしておいた。当初は、調査者である調査チームの大学院生が、IDとパスワードを記入した紙を関心のある調査対象者に大量に配布し、事後的にアクセスし回答してもらうという形式での調査を想定した。しかし、結果的に、このような事後的な回答を依頼する方式では、ほとんど回答してくれる人がいなかった。多くの人は、調査者からの説明に対して、「それは面白いね」などと協力的な態度や感想は示すものの、現実にはその後ウェブページにアクセスして回答してくれるまで協力してくれた人は少数だった。これは、紙にウェブページにURLがあってもすぐにアクセス出来ない、わざわざURLを入力してまでアンケートを答えるのが面倒と感じた協力者が多かったためではないかと筆者は感じた。またその場ですぐ出来る紙とは違い、「また今度やればいい」と思う協力者もいたからではないだろうかとも感じた。ここにウェブページを用いる調査の難しさがあるのではないだろうか。

このため、調査方式を変更し、調査者が、実際にPCや携帯電話などの上で当該のウェブページを提示し、その場で調査者が指示をしながら、調査協力者に回答してもらう形式に切り替えた。この方式だと、興味を示した多くの協力者が、その場で回答について助言されながら回答出来たために、回答者数を増加させることができた。調査者が協力者に付きっきりな状況になった結果として、回答件数は100通程になったが、調査者が、適宜助言をしつつ選択された回答であるため、回答の品質は、ある程度一定して信頼できるものになったのではないだろうか。

調査対象サンプルは、調査者からの依頼によって、結果的に選定されることになった。したがって、完全なランダムサンプルではない。調査者である大学院生は、20代の女性1名、20代の男性1名、30代の社会人女性1名、30代の中国人留学生女性1名、という構成だった。これらの調査者が、自分の生活圏の人物から協力してくれる人物を発見し、その人物に回答を依頼する事によって、回答者を選定することになった。結果、首都圏での回答が多くなり、回答に地域差などを見ることは難しくなった。こうしたウェブアンケートで調査を今後行う際には、ランダムに対象者を選択でき、対象者がすぐにウェブページへアクセス出来るような工夫がさらに必要になるだろう。

なお、回答が、携帯電話から送信された場合、選択肢の部分の文字が文字化けしてしまう、という不都合が生じた（携帯電話とサーバーとで、使用する文字コード体系が不一致だったものと推測される）。ただしこれは、選択肢の番号には影響しなかったので、集計自体には大きな影響は出なかった。ただ、自由回答部分の文字化けが修復できなかったのも、携帯電話経由で送信された回答メール数通については、自由回答を分析に利用できなかった。このように様々な問題があったが、回答の集計や回答結果には一定の特徴は見て取れたので、調査方法のさらなる検討や改善を行えば、より特徴のある結果となるだろう。

また、今回の分析は、中国での回答は扱わず、前例がほとんどないが筆者が男性であると言う事から日本の男性に於ける社会的攻撃性について扱っている。これは、今回筆者が男性である事や男性に於いての社会的攻撃性は存在するのではないかと、日々の生活の中で感じる事があったからである。また、筆者が調査協力者に依頼したときに興味を持ったのは、女性と同じように男性も積極的に参加意思を表した事である。特に男性は筆者が依頼した女性とは違い、回答時には1人で他の人に見えないように気を遣いながら回答しているように思えた。これは、男性も社会的攻撃性を気にしているからではないだろうか。こうした事も関係して、今回は男性の社会的攻撃性について分析をするに至った。

3. 質問の意図と構成

限られたスペースと質問数で、できるだけ目的に適合的な社会調査が実施できるように、質問紙の作成には一定の時間をかけ、調査チーム全員の検討を

行った。この調査では、既述の問題関心から、特定のいじめ事件を調査の基本単位として、何よりも「その社会的攻撃性が発揮された具体的な事例における、集団の大きさ、各人の集団内での役割と属性、そして具体的な攻撃の手法」を問題とした。

具体的には、事件の起きた時代、続けられた期間、起きた場所を確認した。また、もともと女兒のまたは女性のものとして語られる事の多い社会的攻撃性が男性にもおきているものなのか、起きているのであれば男女の差は一体何なのかを調べる為に性別の項目を設けた。

続いて、「当該の事件では、1人の被害者に対して、単独または集団での社会的攻撃行動が起きていた」ものとし、さらに、それを当事者であることもあるだろう、回答者が見聞きしていた、と仮定した。この想定に基づいて、被害者の年齢、性別、特性（いじめっ子・いじめられっ子の他にそれぞれが人気者か目立たない人か等）、回答者との関係、について質問した。同じ質問を、社会的攻撃行動の首謀者についても尋ねた。また、首謀者が形成している集団の大きさについての項目も設けた。

ワイズマンら多くが記述している社会的攻撃における役割分業を念頭に、3つの代表的な役割の人が、その集団内にいたか、その事件にも関与していたか、を質問した。ここでの代表的な役割とは、「副官」、「情報屋」、「使い走り」である。これらの役割の人についても、性別と年齢は確認した。

社会的攻撃性の手法には色々なものがあると考えられた。その為、間接的な情報や人間関係の操作にとみられる手法を7種類にし、これに、直接的・物理攻撃的な3種類の手法を加えた、合計10種類の手法のタイプに分けた。そして、その事件でよく使われていた手口を、これら10種類のうちから3つまで選択してもらった。この様にしたのは、これらのタイプは社会的攻撃性現れている期間において、決して、1つの手法だけが行われるものではなく、いくつもの手法が同時進行的に行われる可能性があるからである。そして、10種類に分けた、それが下記の表1である。

社会的攻撃性での行動では、しばしば、いじめっ子が、次にはいじめられっ子になる、という立場の変化が生じるといわれる。これを確かめる為、そのような逆転が発生したかどうか質問事項に加えた。

さらに、そのいじめ事件について、上のような形式では説明できない具体的な細部について、匿名化した自由回答での記述を求めた。回答率はそれほど高

表1 本調査で用いた社会的攻撃性の手法

-
1. 標的がいない時に、かげ口を言う
 2. 標的の悪いウワサを流す
 3. 標的がいても、黙殺や無視する
 4. 標的を仲間に入れない
 5. 標的をみんなの行事などにさそわない
 6. 悪口をブログやノートに書く
 7. 標的が不快になるほど計画的にからかう
 8. 肉体的な暴力を与える
 9. あからさまな脅しをする
 10. 金品をとる、こわす
-

くなかったが、とりわけ回答者や関係者が成人である場合、個別のケースとして検討したくなるほど充実した説明を記入してくれた回答者もいた。しかし、これらの内容はあまりにもプライバシーや過激な物が含まれる為、今回の結果の部分ではあえて触れない事とした。

以上が、本調査における各質問の意図とその構成である。

3) 執筆における疑問と目的

Underwoodによれば、

「女子はいっそう社会的攻撃性が高い」という議論には、ふたつの主張が含まれている。このうち、より論争的ではないのが、「女子は物理的に攻撃的であるよりも、いっそう社会的に攻撃的である」という主張であるが、これはほぼ確実に正しい。ライフスパンのほとんどの時点において、女子が物理的な攻撃に関与する割合は低いからである。しかし、第二の主張として、これが「女子は男子よりもいっそう社会的攻撃に関与している」という意味であるならば、これへの証拠は一義的ではないという。「女子は女子」「男子は男子」なので、その友人関係から自然に、女子の方が社会的攻撃に関与しやすいと考えることは、ステレオタイプの判断となりうる (Underwood, 2003, Chapt.3)。

しかしこれは、事実なのだろうか。筆者はむしろ、アンケートへの回答の様子から男子に於いての社会的攻撃は過去から存在し、現在は女子に負けず劣らず男子に於いても社会的攻撃性は顕著に現れているのではないかと思える。ま

た社会的攻撃性は男子（未成年者）だけではなく、女子のそれと同じく、成人になっても現れるものではないだろうか。これらの仮説を検証する為に、今回この調査を利用して、男子だけではなく年齢を広く取り、成人男性も含め男性に於ける社会的攻撃性は存在するのではないかを検証し、また、それはどのような性質をもっているのかを考察したいと考える。しかし、前述したように、今回の調査は、一定の事実発見的な予備調査としての性質を持っていることから、考察し結論を出すものではなく、今後の量的、質的調査の予備考察として、いくつかの仮説を提示していくものにしたいと考えている。

第2章 結果

今回、男性に於ける社会的攻撃性を分析する為に筆者が注目したのは、首謀者についてである。これは、社会的攻撃性が行われる場面に於いて、中心的な役割を担うのは首謀者であると考えたからである。また、男性がどのような状況で社会的攻撃性をするのかを分析するには、社会的攻撃性を受ける標的よりは、どのような状況で首謀者が現れるのかを分析すれば、男性の社会的攻撃性の特徴を明らかに出来るのではないかと考えたからである。

1) 首謀者側の性質

1. 未成年男子における社会的攻撃性

表1にあるように男子（未成年）に於いて17名の首謀者がいる事がわかる。これは男児にも社会的攻撃性が存在するという事がわかる。今回の調査では、調査者の中に20代男性、女性がいた事も少なからず影響したのだろうが、広く「いじめや日常生活での悪意についての実態調査」とアンケートを行った為、中学校や高等学校に所属し、「いじめ」を感じる機会が多いだろう状況にいる為、ある程度予想は出来た事であったと筆者は考えている。ただ、女子に於いて見られると考えられていた社会的攻撃性が男子にも見られる事がはっきりした事だけでも本調査は有意義な物になったといえるのではないだろうか。しかし、筆者が注目したのは、未成年男子に於けるものと同じような人数が成人男性でも首謀者となっている事である。これは、筆者が調査を行っていた時にはあまり予想していなかった点である。その為、今回は未成年男子に注目を置くよりも成人男性に注目を置き、その性質について中心に考えていきたいと思う。

表1. 首謀者の年齢

			首謀者年齢											合計
			6歳未満	10代前半	10代後半	20代前半	20代後半	30代前半	30代後半	40代前半	40代後半	50代	60代	
首謀者性別	未回答	度数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		%	.0%	100.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
	男性	度数	1	13	3	2	2	2	4	0	0	3	2	32
		%	3.1%	40.6%	9.4%	6.3%	6.3%	6.3%	12.5%	.0%	.0%	9.4%	6.3%	100.0%
	女性	度数	0	22	4	1	2	4	2	4	2	1	0	42
		%	.0%	52.4%	9.5%	2.4%	4.8%	9.5%	4.8%	9.5%	4.8%	2.4%	.0%	100.0%
	合計	度数	1	36	7	3	4	6	6	4	2	4	2	75
		%	1.3%	48.0%	9.3%	4.0%	5.3%	8.0%	8.0%	5.3%	2.7%	5.3%	2.7%	100.0%

2. 成人男性に於ける社会的攻撃性

表1によれば、男性首謀者は10代前半に多くいる。しかし男性は30代後半に4名、50代に3名、60代に於いても2名の首謀者がいる事がわかる。これは女性にない特徴である。また、20代以上とすると、15名と社会人になるだろう年齢になっても男性は社会的攻撃性を行う事が分かる。逆に、40代では前半後半の両方に於いて、0名という空白期間のようなものがある。これらは一体どういうことなのだろうか。男性の社会的攻撃性は30代まで行われ、高齢になった時に再燃するものなのだろうか。これは、よりミクロな分析が必要であろう。ただ、男性の特有さをここに見ることが出来るであろう。ただ、先行研究では女兒に於ける社会的攻撃性が取り扱われる事が多い中、男性に於いても、20代以降も社会的攻撃性が起きている。これはなぜ起きているのだろうか。

ここではよりミクロな分析の予備考察として、男性首謀者の性質に注目をして分析をしていこうと思う。

表2. 首謀者の近さ

			首謀者の近さ				合計
			自分自身	直接の友人	あまり近くない友人	無関係な人	
首謀者性別	未回答	度数	0	1	0	0	1
		%	.0%	100.0%	.0%	.0%	100.0%
	男性	度数	2	22	4	4	32
		%	6.3%	68.8%	12.5%	12.5%	100.0%
	女性	度数	4	32	6	0	42
		%	9.5%	76.2%	14.3%	.0%	100.0%
合計		度数	6	55	10	4	75
		%	8.0%	73.3%	13.3%	5.3%	100.0%

首謀者の近さに於いて男性はアンケートに回答した人に近い人が首謀者になる事が多い。これは女性にも言える事でもある。しかし、女性と比べるとよく知らない人がいるという点は男性特有のものであるのではないだろうか。首謀者は社会的攻撃性の中心的な役割を担うはずであるにも関わらず、よく知らない人物が起こした社会的攻撃性を知っているというのは、特殊なものではないだろうか。では首謀者の人物はどのような性質をもっているのだろうか。

表3. 首謀者の人物

			首謀者人物					合計
			未回答	人気者	特に 目立たない人	うまく適応 できてない 感じの人	よく 知らない人	
首謀者性別別	未回答	度数	1	0	0	0	0	1
		%	100.0 %	.0 %	.0 %	.0 %	.0 %	100.0 %
	男性	度数	0	19	7	4	2	32
		%	.0 %	59.4 %	21.9 %	12.5 %	6.3 %	100.0 %
	女性	度数	1	29	5	6	1	42
		%	2.4 %	69.0 %	11.9 %	14.3 %	2.4 %	100.0 %
合計	度数	2	48	12	10	3	75	
	%	2.7 %	64.0 %	16.0 %	13.3 %	4.0 %	100.0 %	

首謀者の人物では、男性は女性同様、人気者が首謀者になる事が多いようである。しかし、女性と同じく馴染めていない人が首謀者になる事もある。つまり男性でも、首謀者になる者は、「人気者であり、アンケート回答者の直接の友人知人」「人気者だが、あまり近くない者」「目立たない直接の友人」「目立たなく、近くない者」等、多岐に渡る。しかもそれは、特に自分とは「無関係の人物である者」や「自分のあまり近くない知り合い」といった自分から遠い人物が首謀者である事を知っているケースが多い（8名25%）と言うのは男性に見られる特殊なケースではないだろうか。こうしたケースがあるということは、知った経緯が男性に於いては、社会的攻撃性を直接見聞きする場合よりも、うわさや口コミで社会的攻撃性を知る場合が多いのだろうか。今度は社会的攻撃性を知った経緯について見てみよう。

結果としてはうわさや口コミで知ったというものは2名であった。自分から社会的攻撃性についての情報を入手したケース（自分が直接経験・直接見聞きした）が多く、他者からの入手は少ない。これは、男性が女性と比べて特殊な空間での大きなコミュニティーにいるからではないだろうか。Underwoodは

表 4. 知った経緯

			知った経緯					合計
			未回答	直接経験	直接見聞き	直接事件の関係者から聞いた	言い伝えやうわさ	
首謀者性別	未回答	度数	0	1	0	0	0	1
		%	.0 %	100.0 %	.0 %	.0 %	.0 %	100.0 %
	男性	度数	1	7	17	5	2	32
		%	3.1 %	21.9 %	53.1 %	15.6 %	6.3 %	100.0 %
	女性	度数	1	13	23	0	5	42
		%	2.4 %	31.0 %	54.8 %	.0 %	11.9 %	100.0 %
合計	度数	2	21	40	5	7	75	
	%	2.7 %	28.0 %	53.3 %	6.7 %	9.3 %	100.0 %	

著書の中では、女子の方が男子よりもいっそう密接で緊密な友情を発達させるという。女子は、いっそう自己開示し、相互に触れ合い、誰が誰の親友かについていっそう気にかけている。女子の友情は、男子のそれよりも、いっそう閉鎖的で排他的である、とされている。女子は2人関係をいっそう集中するので、男子よりも小さな集団や社会ネットワークで遊ぶことが多いと論じている(Underwood, 2003, Chapt.3)。つまり、男性に於いては女性よりも大きな集団や社会ネットワークを構築するということである。しかし、集団やネットワークがどのような空間の中で構築されているかは論じられてはいない。男児に於いては、集団やネットワークの大きさだけで問題はないだろうが、成人男性に於いては、男性が所属する集団やネットワークがどのような空間で構築されているかというのが重要な要因になっているのではないかと筆者は考える。なぜなら、20代～30代の男性は一般的な社会的立場として、仕事という要素をその生活の大きな部分を占める。その為、男性が構築する集団やネットワーク内での社会的攻撃性は、それらが構築されている仕事場という特殊な空間に影響されていると考えるのが自然ではなかろうか。

実際、下記の2つの表の起きた場所とグループ構成では、男性が社会的攻撃性を起こった場所と挙げたものには、学校や職場や寮といった空間が多い。この事は女性の結果にも言える事だが、その一方、グループ構成では女性と比べて、わずかではあるが、6～9人でのグループと10人以上のグループが多い。特に6～9人のグループは男性のグループ構成の中では2番目に多いもので首謀者1人での社会的攻撃性は一番少ない結果となっている。これは、男性が特殊な空間で比較の人が多く、広い集団で社会的攻撃性を行う傾向があるという

結果であるだろう。今回の調査は男子だけでなく、年齢を広く取り男性としたにも関わらずこの結果なのだから、男性も子供の頃に出来た集団や社会ネットワークの大きさを成人になってからも変化を持たせないものであると考えられるが、女性との違いはその集団がどのような空間で構築されているかに影響されるのだろう事が考えられる。仕事上の付き合いといった集団や仕事上のネットワークだから、多くの人と関わるケースが増え、自分のよく知らない人物や目立たない人物が首謀者になるケースを直接見聞きしたり、体験できたりするのではないだろうか。

表5. 起きた場所

			起きた場所						合計	
			未回答	家庭内	学校内や 学校同士	学校や職場 の寮や社宅	ご近所 の町内	クラブや サークル		両行先や国内 外の出張先
首謀者性別	未回答	度数	0	0	1	0	0	0	0	1
		%	.0%	.0%	100.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
	男性	度数	1	1	20	8	0	2	0	32
		%	3.1%	3.1%	62.5%	25.0%	.0%	6.3%	.0%	100.0%
	女性	度数	0	0	31	7	2	1	1	42
		%	.0%	.0%	73.8%	16.7%	4.8%	2.4%	2.4%	100.0%
合計	度数	1	1	52	15	2	3	1	75	
	%	1.3%	1.3%	69.3%	20.0%	2.7%	4.0%	1.3%	100.0%	

表6. グループ構成

			グループ構成						合計
			未回答	首謀者1名	2～3名	4～5名	6～9名	10名以上	
首謀者性別	未回答	度数	1	0	0	0	0	0	1
		%	100.0 %	.0 %	.0 %	.0 %	.0 %	.0 %	100.0 %
	男性	度数	0	3	14	5	6	4	32
		%	.0 %	9.4 %	43.8 %	15.6 %	18.8 %	12.5 %	100.0 %
	女性	度数	1	7	16	13	2	3	42
		%	2.4 %	16.7 %	38.1 %	31.0 %	4.8 %	7.1 %	100.0 %
合計	度数	2	10	30	18	8	7	75	
	%	2.7 %	13.3 %	40.0 %	24.0 %	10.7 %	9.3 %	100.0 %	

では、男性がこうしたケースで社会的攻撃性を体験し、見聞きすることが多いのはなぜだろう。

一つの可能性としては、先程も触れたが、男性の社会的立場が影響しているのではないだろうか。10代の頃は差ほど社会的地位が明確にならないとして

も、20代から30代に於いては社会人として様々な社会的立場に置かれる事があるだろう。特に仕事という点では、社会的地位が大きく影響するだろう。職場での社会的地位が社会的攻撃性に影響を与えるのであれば、20代、30代に社会的攻撃性の事例があるのは、仕事を覚える段階や多少出世が絡み始める時期に同僚を攻撃する事で自分の評価を上げる事を考えての行動ではないかと推測出来る。これは、女子の社会的攻撃性で見られると言われる、女王蜂の性質と似た部分があるのではないだろうか。また、50代、60代で事例があるのは管理職になった時の部下に対する攻撃、退職をした後にそれまでの社会的立場での不満や鬱憤を晴らす為の行動、という事も考えられるのではないだろうか。

社会的地位が社会的攻撃性に影響を与え、それが仕事という部分で起きているというのは、他の部分からも推測出来る。例えば、首謀者の近さや人物に於いての多様性は、仕事上付き合う人の多様性（同僚、上司、部下、仕事相手等）が影響しているのではないだろうか。この仕事上での社会的地位が「知った経緯」に於いて、社会的攻撃性についての情報を入手したケース（自分が直接経験・直接見聞きした）が多く他者からの入手は少ないという状況を作っているのではないだろうか。また、社会的攻撃性が起きた場所で、学校や職場や寮といった狭い空間が多い事やグループ構成に於いて人数が多い事例があること、グループ構成の事例が万遍無くある事にも男性の勤め人としての社会的立場が影響しているのとは言えないだろうか。

表7. 期間

			期 間					合 計
			1日から数日	数週間	数か月	1 ～ 3 年間	3 年間以上	
首謀者性別別	未回答	度数	0	0	0	1	0	1
		%	.0 %	.0 %	.0 %	100.0 %	.0 %	100.0 %
	男性	度数	1	1	12	14	4	32
		%	3.1 %	3.1 %	37.5 %	43.8 %	12.5 %	100.0 %
	女性	度数	1	8	15	15	3	42
		%	2.4 %	19.0 %	35.7 %	35.7 %	7.1 %	100.0 %
合 計	度数	2	9	27	30	7	75	
	%	2.7 %	12.0 %	36.0 %	40.0 %	9.3 %	100.0 %	

社会的攻撃性の「期間」に於いても、仕事上の性質が影響している可能性が見る事が出来る。男性の社会的攻撃性に於いて、数ヶ月と1年～3年での期間が多い。これは学生ならば、学年が上がるごとと考えられるが、20代～30代までの期間ならば、転勤や仕事上のグループ等のローテーションがあるからと推

測出来ないだろうか。

表 8．立場の変化

			立場の変化				合計
			未回答	あった	いなかった	知らない・わからない	
首謀者性別	未回答	度数	0	0	0	1	1
		%	.0 %	.0 %	.0 %	100.0 %	100.0 %
	男性	度数	5	4	8	15	32
		%	15.6 %	12.5 %	25.0 %	46.9 %	100.0 %
	女性	度数	7	12	12	11	42
		%	16.7 %	28.6 %	28.6 %	26.2 %	100.0 %
合計	度数	12	16	20	27	75	
	%	16.0 %	21.3 %	26.7 %	36.0 %	100.0 %	

「立場の変化」に於いても男性は特殊だ。男性に於いて「立場の変化」は、変化のしなかった場合もあるが、知らない、分からない場合が多い。これは、転勤や仕事上のグループ等のローテーションがある為、その後の経過を知ることが難しいからではないだろうか。

ここまでの首謀者側の性質から、男性の特に、成人男性の社会的攻撃性には社会的地位や社会人として仕事をするという社会的立場が影響するのではないかという仮説が立てられるだろう。では男性首謀者に標的にさせる標的側の性質はどのようなものなのだろう。

2) 標的にされる側の性質

表 9．標的年齢

			標の年齢											合計
			6歳未満	10代前半	10代後半	20代前半	20代後半	30代前半	30代後半	40代前半	40代後半	50代	60代	
首謀者性別	未回答	度数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		%	.0%	.0%	100.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
	男性	度数	1	1	15	3	2	1	1	4	0	1	3	32
		%	3.1%	3.1%	46.9%	9.4%	6.3%	3.1%	3.1%	12.5%	.0%	3.1%	9.4%	100.0%
	女性	度数	0	1	22	3	1	2	5	5	2	1	0	42
		%	.0%	2.4%	52.4%	7.1%	2.4%	4.8%	11.9%	11.9%	4.8%	2.4%	.0%	100.0%
合計	度数	1	2	38	6	3	3	6	9	2	2	3	75	
	%	1.3%	2.7%	50.7%	8.0%	4.0%	4.0%	8.0%	12.0%	2.7%	2.7%	4.0%	100.0%	

首謀者と違い、標的では40代後半を除いたすべての年代が男性の場合標的に

なることがわかる。また、未成年男子成人男性に分けると男子17名、男性15名と差はほとんど見られない。つまり、男性が首謀者の場合、社会的攻撃性の対象となる年齢にはあまり大きな差はないと考えられる。では、男性が首謀者の場合、対象になる標的には特に特徴はないのだろうか。首謀者と同じくミクロな分析が必要であるとは思いますが、今回はそれへの予備考察として男性に標的にされる対象の特有さを考察していこうと思う。

表10. 標的近さ

			標的近さ			合計
			自分自身	直接の友人	あまり近くない友人	
首謀者性別	未回答	度数	0	1	0	1
		%	.0 %	100.0 %	.0 %	100.0 %
	男性	度数	6	16	10	32
		%	18.8 %	50.0 %	31.3 %	100.0 %
	女性	度数	13	23	6	42
		%	31.0 %	54.8 %	14.3 %	100.0 %
合計		度数	19	40	16	75
		%	25.3 %	53.3 %	21.3 %	100.0 %

男性が標的を選ぶとき、調査協力者からはどのような近さにいる場合が多いのだろう。ここで注目するのは、首謀者よりも「あまり近くない知り合い」が多いという事である。首謀者の時に触れたが、これは男性が属する集団やネットワークの特有さが影響していると考えられるのではないだろうか。また、女性にも言えることだが、「自分には無関係な人」が標的になることがないという事はどう言った事が影響しているのであろうか。これも、男性の属する集団などに影響されているのだろうか。つまり、集団の構成人数が多いので、仕事上の「あまり近くない知り合い」が標的になるのを仕事の関係で直接知る事もあるという事である。表4で自分から社会的攻撃性についての情報を入手したケース（自分が直接経験・直接見聞きした）が多かったことから、成人男性は、仕事上で知る事が多いという事であろう。これは、標的になった人物と同じ仕事をする事が多いという事だろうか。もしそうであり、成人男性の社会的攻撃性が社会地位や立場が関係するならば、同じ地位や立場の者同士で社会的攻撃性の被害について報告し合っている、もしくは、相談しているのではないかという疑問も生まれてくる。本調査ではそうした事は質問事項には入れていないが、より詳しい調査をする際には、質問事項に「社会的攻撃性での被害を

同僚や上司、部下へ相談したことがあるのか」というものを載せてもいいのかもしれない。

表11. 標的性別

			標の性別			合計
			未回答	男性	女性	
首謀者性別	未回答	度数	0	0	1	1
		%	.0 %	.0 %	100.0 %	100.0 %
	男性	度数	2	21	9	32
		%	6.3 %	65.6 %	28.1 %	100.0 %
	女性	度数	0	1	41	42
		%	.0 %	2.4 %	97.6 %	100.0 %
合計		度数	2	22	51	75
		%	2.7 %	29.3 %	68.0 %	100.0 %

標的となる人物の性別を見ればより男性首謀者による社会的攻撃性は「仕事」という空間で起きているのでないかと推測出来る。それは、標的となる人の性別が首謀者の性別とは違う事が女性と比べて多いと言う事である。これだけで「仕事」上の社会的攻撃性が多いとは言い切れないが社会的地位や立場といったものが男性の社会的攻撃性の一因を持っているのではないかという考察は出来る。そして、もう一つの可能性として、男性は標的が社会的に同等な立場や地位にいるときに相手をその地位等を争う時に社会的攻撃性をするだけでなく、女性や部下、年配者や年少者といった首謀者よりも、社会的地位や立場が低いものに対して行う事が多いのではないかというものが考えられるのである。

では、男性首謀者が標的に選ぶ対象の人物像はどのようなものなのか。

首謀者の人物像との人数の比率はあまり変わっていない。標的となる人物が「人気者」「特に目立たない人」「うまく適応できてない感じの人」「よく知らない人」の順番になるのは、女性と変わらない。つまり、今回の調査でアンケートを採った首謀者が標的として選ぶ人物像に男女差はあまりない可能性がある。ただ、今回の調査では、社会的地位等についてのアンケートを行っていない為、男性首謀者と標的にされる人物との社会的地位等の差はわからなかった。今後調査を行う場合、それが男女共通である無しに関わらず、アンケートの項目として入れる事は男性、女性共にそれぞれの社会的攻撃性の特有さを調査する上で必要になる場合があるだろう。

表12. 標的人物

			標的人物					合計
			未回答	人気者	特に 目立たない人	うまく適応 できてない 感じの人	よく 知らない人	
首謀者性別	未回答	度数	1	0	0	0	0	1
		%	100.0 %	.0 %	.0 %	.0 %	.0 %	100.0 %
	男性	度数	0	14	9	6	3	32
		%	.0 %	43.8 %	28.1 %	18.8 %	9.4 %	100.0 %
	女性	度数	1	17	14	9	1	42
		%	2.4 %	40.5 %	33.3 %	21.4 %	2.4 %	100.0 %
合計	度数	2	31	23	15	4	75	
	%	2.7 %	41.3 %	30.7 %	20.0 %	5.3 %	100.0 %	

第3章 まとめ

1) 調査結果から見えるもの

今回の調査で男性に於ける社会的攻撃性について、予想出来る事は大きく分けて2つあるが分った。

- ・未成年男子に於いての社会的攻撃性だけでなく、成人男性に於いても社会的攻撃が存在する。
- ・男性に見られる社会的攻撃性は男性特有のものがある。

特に今回は成人男性の結果について詳しく分析をしていった。そこで成人男性の特徴の可能性として挙げられるものは、

- ・仕事といった大きな集団や社会ネットワークにおいて社会的攻撃性は表れている。
- ・社会的攻撃性が起こるのは、職場や寮といった狭い空間。
- ・首謀者と標的の間には社会的地位や立場といった面が影響している。
- ・社会的攻撃性が行われる期間は比較的長期的なものである。
- ・社会的攻撃性が行われるグループ構成は、首謀者単独は少なく、中～大とバラつきはあるものの女性と比べると大きなものが多い。
- ・被害者同士で相談している。もしくは被害者が同僚などに相談している事がある。

以上の6点ではないかと思われる。

しかし、これらはあくまで仮説である事を考慮して頂きたい。また、今回の

調査方法は改善の余地はあり、調査方法の再検討もしなければならぬだろう。けれど、今回の調査と分析は、あくまでも、これからなされるだろう男性の社会的攻撃性についてのさらなる調査や分析の仮説形成や検証調査に対しての予備調査、分析にしたいと考えている。その点では、男性における社会的攻撃性の発見や一定の特徴を見つけ出す事が出来たのは1つの成果であると考えられる。

2) 今後の課題

今回の調査で男性にも社会的攻撃性は存在する可能性が提示された。しかし、まだ詳しくわからない事が多い。筆者としては、「男性の未成年時と成人時での社会的攻撃性の性質差異はあるのか」という疑問が生まれた。未成年男子と成人男性に社会的攻撃性が存在する事は今回の調査でも可能性を提示する事が出来たが、その間の差異については可能性を提示する事は出来なかった。これは、回答者や首謀者、標的の社会的地位や立場といった属性を今回のアンケートに記載しなかったことが原因であるだろう。同じような調査で未成年と成人の間の差異を調べる時にはこのような質問事項の検討も必要だろう。もちろん、アンケート調査のようなマクロな調査だけでなく、インタビューや時には社会的攻撃性が行われている場面での参与的な観察といった、よりミクロな調査、分析も今後、必要になっていくだろう。また、男性のみに焦点を当てた調査を行うことが求められるだろう。そこで、未成年男子がどのような志向を持って社会的攻撃性を行っているのか、それは成人男性のそれと差異はあるのか、同様のものではあれば、その攻撃性は未成年男子のころから継承されていくものであるのか等様々な疑問を考察できるだろう。

※なお、本研究は成城大学大学院コミュニケーション学専攻後藤将之研究室が2011年度に実施した社会的攻撃性の研究に基づき、筆者がその調査結果を独自に分析したものである。

参考文献

- Simmons, R., *Odd Girl Out: The Hidden Culture of Aggression in Girls*, Harcourt, 2002, Revised ed., 2011.
- Underwood, M. K., *Social Aggression among Girls*, Guilford, 2003.
- Putallaz, M. and Bierman, K. L., (eds.), *Aggression, Antisocial Behavior, and Violence*

among Girls: A Developmental Perspective, Guilford, 2004

社会的攻撃性 social aggression についてのシンボリック相互作用論的研究 —— 研究の
経緯と予備調査の結果、後藤将之、2012

○はゼミ教員の指導に依拠して引用

付録 1 ウェブページ調査用フォーマットの一部
(ここに掲載したページのような約30問の選択肢質問からなる)

いじめや日常生活での悪意についての実態調査

いじめや日常生活での悪意についてのウェブ実態調査
実施：成城大学大学院文学研究科 後藤将之研究室
成城大学の教員紹介ページ：後藤将之 <http://www.seijo.ac.jp/graduate/gslit/orig/staff/goto.html>

■■■■このウェブページへのアクセス、どうもありがとうございます。■■■■

日ごろの対人関係で、悪意のある扱いをされた経験をお持ちの方は、とても多いです。それは、あいまいで、なかなか言葉に出せない話題のため、傷ついたり、黙ったままの方も、たくさんおられます。

このアンケートでは、みなさんのお知り合いやみなさんの、そうした苦しい経験の実態を、個人名は全て匿名または仮名で、お教えてください。調査のシステムにより、回答者の匿名性は、確実に保証されています。この調査は、成城大学の大学院 後藤研究室が、このような対人コミュニケーション問題の研究と予防のために、大学院生と協力して実施しています。

以下の質問に、選択肢で答えていただき、最後にいちばん下にある「送信」ボタンを一度クリックしていただくと、そこまでの回答結果が、当研究室の受信専用アドレスへ送られます。発信元の情報は、こちらでは何も分からないようになっています。どうか安心して、ご協力ください。

ご回答の受付期間は、2011年9月30日までです。

下記のフォームにご記入の上、最後の「送信」ボタンを1度だけクリックしてください。送信されるのは、下記で選択・記入いただいた内容だけです。

質問中、「出来事」とは、「誰かが悪意のある扱いを受けた、まとまった1つの事件」という意味です。些細な出来事でも、傷ついた人がいた出来事ならば、対象になります。また、複数の出来事をご存知の方は、恐縮ですが、よろしければ、1回答＝1出来事として、それぞれ記入し送信してください。なお、*マークが末尾についた質問はすべてご回答ください。

Q1-1 誰かがいじめや悪意のある扱いを受けた、まとまった事件についてうかがいます。それは主としていつ頃に起きた出来事でしたか？*

ここから選んでください

Q1-2 それが起きた時、あなた自身の年齢はいくつくらいでしたか？*

ここから選んでください

Q2-1 その出来事的首謀者は、あなた自身に近い人でしたか？*

ここから選んでください

Q2-2 その出来事的首謀者の年齢は、その時いくつくらいでしたか？*

ここから選んでください

Q2-3 その出来事的首謀者の性別は？*

ここから選んでください

Q2-4 その出来事的首謀者は、しいて次の中から選ぶなら、どんな人でしたか？*

ここから選んでください

Q3-1 その出来事の標的(悲しい思いをした人)は、あなた自身に近い人でしたか？*

ここから選んでください

付録2 ペーパー版調査票・単純集計結果

いじめや日常生活での悪意についての実態調査 素集計

2011年8～9月

実施：成城大学大学院文学研究科 後藤将之研究室

〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20

成城大学の教員紹介ページ：（ここでは掲載を省略）

日ごろの対人関係で、悪意のある扱いをされた経験をお持ちの方は、とても多いです。それは、あいまいで、なかなか言葉に出せないために、傷ついたまま、黙ったままの方も、たくさんおられます。

このアンケートでは、みなさんのお知り合いやみなさんの、そうした苦しい経験の実態を、個人名は全て匿名または仮名で、お教えください。調査のシステムにより、回答者の匿名性は、確実に保証されています。この調査は、成城大学の大学院 後藤将之研究室が、このような対人コミュニケーション問題の研究と予防のために、大学院生と協力して実施しています。

回答は統計的に処理され、個人が問題になることはありません。安心してご協力ください。

Q1-1 誰かがいじめや悪意のある扱いを受けた、まとまった事件についてうかがいます。

それは主としていつ頃に起きた出来事でしたか？ V₂

	全体（実数）	日本国内	中国国内
1. 1960年代	1.9 (2)	1.3 (1)	3.7 (1)
2. 1970年代	2.9 (3)	3.9 (3)	0.0 (0)
3. 1980年	2.9 (3)	2.6 (2)	3.7 (1)
4. 1990年代	18.4 (19)	21.1 (16)	11.1 (3)
5. 2000年代	55.3 (57)	60.5 (46)	40.7 (11)
6. 2010年代	17.5 (18)	10.5 (8)	37.0 (10)
DK/NA	1.0 (1)	0.0 (0)	3.7 (1)

Q1-2 それが起こった時、あなた自身の年齢はいくつくらいでしたか？ V₃

1. ～ 6 歳	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
2. ～ 9 歳	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
3. 10代前半（10～14歳）	35.9 (37)	46.1 (35)	7.4 (2)
4. 10代後半（15～19歳）	12.6 (13)	7.9 (6)	25.9 (7)
5. 20代前半（20～24歳）	10.7 (11)	6.6 (5)	22.2 (6)
6. 20代後半（25～29歳）	9.7 (10)	3.9 (3)	25.9 (7)
7. 30代前半（30～34歳）	13.6 (14)	13.2 (10)	14.8 (4)
8. 30代後半（35～39歳）	9.7 (10)	11.8 (9)	3.7 (1)
9. 40代前半（40～44歳）	3.9 (4)	5.3 (4)	0.0 (0)

10. 40代後半（45～49歳）	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)
11. 50代	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)
12. 60代～	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)

Q2-1 その出来事的首謀者は、あなた自身に近い人でしたか？ V_4

1. 自分自身	8.7 (9)	7.9 (6)	11.1 (3)
2. 自分の直接の友人知人	65.0 (67)	73.7 (56)	40.7 (11)
3. 自分のあまり近くない知り合いなど	15.5 (67)	13.2 (10)	22.2 (6)
4. 自分には無関係な人	15.5 (16)	5.3 (4)	18.5 (5)
DK/NA	1.9 (2)	0.0 (0)	7.4 (2)

Q2-2 その出来事的首謀者の年齢は、その時いくつくらいでしたか？ V_5

1. ～ 6 歳	1.0 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)
2. ～ 9 歳	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
3. 10代前半（10～14歳）	37.9 (39)	48.7 (37)	7.4 (2)
4. 10代後半（15～19歳）	8.7 (9)	9.2 (7)	7.4 (2)
5. 20代前半（20～24歳）	8.7 (9)	3.9 (3)	22.2 (6)
6. 20代後半（25～29歳）	11.7 (12)	5.3 (4)	29.6 (8)
7. 30代前半（30～34歳）	8.7 (9)	7.9 (6)	11.1 (3)
8. 30代後半（35～39歳）	8.7 (9)	7.9 (6)	11.1 (3)
9. 40代前半（40～44歳）	4.9 (5)	5.3 (4)	3.7 (1)
10. 40代後半（45～49歳）	2.9 (3)	2.6 (2)	3.7 (1)
11. 50代	4.9 (5)	5.3 (4)	3.7 (1)
12. 60代～	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)

Q2-3 その出来事的首謀者の性別は？ V_6

1. 男性	43.7 (45)	42.1 (32)	48.1 (13)
2. 女性	51.5 (53)	56.6 (43)	37.0 (10)
3. 知らない、分からない	3.9 (4)	0.0 (0)	14.8 (4)
DK/NA	1.0 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)

Q2-4 その出来事的首謀者は、しいて次の中から選ぶなら、どんな人でしたか？ V_7

1. 人気者	50.5 (52)	64.5 (49)	11.1 (3)
2. 特に目立たない人	17.5 (18)	15.8 (12)	22.2 (6)
3. うまく適応できてない感じの人	17.5 (18)	13.2 (10)	29.6 (8)
4. よく知らない人	12.6 (13)	3.9 (3)	37.0 (10)
DK/NA	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)

Q3-1 その出来事の標的（悲しい思いをした人）は、あなた自身に近い人でしたか？ V₈

1. 自分自身	23.3 (24)	26.3 (20)	14.8 (4)
2. 自分の直接の友人知人	53.4 (55)	52.6 (40)	55.6 (15)
3. 自分のあまり近くない知り合いなど	18.4 (19)	21.1 (16)	11.1 (3)
4. 自分には無関係な人	3.9 (4)	0.0 (0)	14.8 (4)
DK/NA	1.0 (1)	0.0 (0)	3.7 (1)

Q3-2 その出来事の標的の人の年齢は、その時いくつくらいでしたか？ V₉

1. ～ 6 歳	1.0 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)
2. ～ 9 歳	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)
3. 10代前半（10～14歳）	40.8 (42)	51.3 (39)	11.1 (3)
4. 10代後半（15～19歳）	8.7 (9)	7.9 (6)	11.1 (3)
5. 20代前半（20～24歳）	9.7 (10)	3.9 (3)	25.9 (7)
6. 20代後半（25～29歳）	11.7 (12)	3.9 (3)	33.3 (9)
7. 30代前半（30～34歳）	6.8 (7)	7.9 (6)	3.7 (1)
8. 30代後半（35～39歳）	10.7 (11)	11.8 (9)	7.4 (2)
9. 40代前半（40～44歳）	2.9 (3)	2.6 (2)	3.7 (1)
10. 40代後半（45～49歳）	2.9 (3)	2.6 (2)	3.7 (1)
11. 50代	2.9 (3)	3.9 (3)	0.0 (0)
12. 60代～	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)

Q3-3 その出来事の標的の人の性別は？ V₁₀

1. 男性	33.0 (34)	28.9 (22)	44.4 (12)
2. 女性	63.1 (65)	68.4 (52)	48.1 (13)
3. 知らない、分からない	1.9 (2)	0.0 (0)	7.4 (2)
DK/NA	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)

Q3-4 その出来事の標的の人は、しいて次の中から選ぶなら、どんな人でしたか？ V₁₁

1. 人気者	37.9 (39)	40.8 (31)	29.6 (8)
2. 特に目立たない人	30.1 (31)	30.3 (23)	29.6 (8)
3. うまく適応できてない感じの人	22.3 (23)	21.1 (16)	25.9 (7)
4. よく知らない人	7.8 (8)	5.3 (4)	14.8 (4)
DK/NA	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)

Q5 その出来事について、あなたはどのようにして知りましたか？ V₁₂

1. 自分自身が直接に体験した	26.2 (27)	28.9 (22)	18.5 (5)
2. 自分自身が直接に見聞きした	44.7 (46)	52.6 (40)	22.2 (6)
3. 自分自身が事件の関係者から聞いた	15.5 (16)	6.6 (5)	40.7 (11)
4. 言い伝えやウワサなどで聞いた	8.7 (9)	9.2 (7)	7.4 (2)

5. 新聞やテレビなどで見聞きした	1.0 (1)	0.0 (0)	3.7 (1)
6. インターネットで見聞きした	1.9 (2)	0.0 (0)	7.4 (2)
DK/NA	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)

Q6 その出来事は、主にどんな場所で起きていましたか？ V₁₃

1. 家庭内	3.9 (4)	1.3 (1)	11.1 (3)
2. 学校内や学校同士	61.2 (63)	69.7 (53)	37.0 (10)
3. 学校や職場の寮や社宅など	22.3 (23)	19.7 (15)	29.6 (8)
4. ご近所の町内	4.9 (5)	2.6 (2)	11.1 (3)
5. クラブやサークル	2.9 (3)	3.9 (3)	0.0 (0)
6. スポーツなどの練習場や競技場	1.0 (1)	0.0 (0)	3.7 (1)
7. 旅行先や国内外の出張先・赴任先	2.9 (3)	1.3 (1)	7.4 (2)
DK/NA	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)

Q7 その出来事は、どれくらいの期間、続いていましたか？ V₁₄

1. 1日から数日	12.6 (13)	2.6 (2)	40.7 (11)
2. 数週間	17.5 (18)	13.2 (10)	29.6 (8)
3. 数ヶ月	30.1 (31)	35.5 (27)	14.8 (4)
4. 1～3年間	31.1 (32)	39.5 (30)	7.4 (2)
5. 3年間以上	8.7 (9)	9.2 (7)	7.4 (2)

Q8-1 その出来事で、よく使われていた手口を3つ選んでください。その1。 V₁₅

1. 標的がいない時に、かげ口を言う	30.1 (31)	26.3 (20)	40.7 (11)
2. 標的の悪いウワサを流す	7.8 (8)	9.2 (7)	3.7 (1)
3. 標的がいても、黙殺や無視する	13.6 (14)	13.2 (10)	14.8 (4)
4. 標的を仲間に入れない	14.6 (15)	18.4 (14)	3.7 (1)
5. 標的をみんなの行事などにさそわない	3.9 (4)	2.6 (2)	7.4 (2)
6. 悪口をブログやノートに書く	2.9 (3)	3.9 (3)	0.0 (0)
7. 標的が不快になるほど計画的にからかう	16.5 (17)	18.4 (14)	11.1 (3)
8. 肉体的な暴力を与える	3.9 (4)	5.3 (4)	0.0 (0)
9. あからさまな脅しをする	2.9 (3)	1.3 (1)	7.4 (2)
10. 金品をとる、こわす	3.9 (4)	1.3 (1)	11.1 (3)

Q8-2 その出来事で、よく使われていた手口を3つ選んでください。その2：上のQ8-1
以外のものを選んでください

1. 標的がいない時に、かげ口を言う	13.6 (14)	15.8 (12)	7.4 (2)
2. 標的の悪いウワサを流す	23.3 (24)	19.7 (15)	33.3 (9)
3. 標的がいても、黙殺や無視する	16.5 (17)	17.1 (13)	14.8 (4)
4. 標的を仲間に入れない	11.7 (12)	15.8 (12)	0.0 (0)

5. 標的をみんなの行事などにさそわない	7.8 (8)	7.9 (6)	7.4 (2)
6. 悪口をブログやノートに書く	1.9 (2)	1.3 (1)	3.7 (1)
7. 標的が不快になるほど計画的にからかう	2.9 (3)	3.9 (3)	0.0 (0)
8. 肉体的な暴力を与える	4.9 (5)	3.9 (3)	7.4 (2)
9. あからさまな脅しをする	6.8 (7)	6.6 (5)	7.4 (2)
10. 金品をとる、こわす	2.9 (3)	2.6 (2)	3.7 (1)
DK/NA	7.8 (8)	5.3 (4)	14.8 (4)

Q8-3 その出来事で、よく使われていた手口を3つ選んでください。その3：上のQ8-1とQ8-2以外のものを選んでください

1. 標的がいない時に、かげ口を言う	12.6 (13)	13.2 (10)	11.1 (3)
2. 標的の悪いウワサを流す	9.7 (10)	10.5 (8)	7.4 (2)
3. 標的がいても、黙殺や無視する	17.5 (18)	14.5 (11)	25.9 (7)
4. 標的を仲間に入れない	14.6 (15)	17.1 (13)	7.4 (2)
5. 標的をみんなの行事などにさそわない	12.6 (13)	13.2 (10)	11.1 (3)
6. 悪口をブログやノートに書く	2.9 (3)	1.3 (1)	7.4 (2)
7. 標的が不快になるほど計画的にからかう	6.8 (7)	9.2 (7)	0.0 (0)
8. 肉体的な暴力を与える	3.9 (4)	2.6 (2)	7.4 (2)
9. あからさまな脅しをする	5.8 (6)	6.6 (5)	3.7 (1)
10. 金品をとる、こわす	2.9 (3)	2.6 (2)	3.7 (1)
DK/NA	10.7 (11)	9.2 (7)	14.8 (4)

Q8-ALL その出来事で、よく使われていた手口を3つ選んでください。上記の合計

1. 標的がいない時に、かげ口を言う	56.3 (58)	55.3 (42)	59.2 (16)
2. 標的の悪いウワサを流す	40.8 (42)	39.4 (30)	44.4 (12)
3. 標的がいても、黙殺や無視する	47.6 (49)	44.8 (34)	55.5 (15)
4. 標的を仲間に入れない	40.9 (42)	51.3 (39)	11.1 (3)
5. 標的をみんなの行事などにさそわない	35.0 (25)	23.7 (18)	25.9 (7)
6. 悪口をブログやノートに書く	7.7 (8)	6.5 (5)	11.1 (3)
7. 標的が不快になるほど計画的にからかう	26.2 (27)	31.5 (24)	11.1 (3)
8. 肉体的な暴力を与える	12.7 (13)	11.8 (9)	14.8 (4)
9. あからさまな脅しをする	15.5 (16)	14.5 (11)	18.5 (5)
10. 金品をとる、こわす	9.7 (10)	6.5 (5)	18.5 (5)

Q9 その首謀者のグループは、何人くらいで構成されていましたか？ V₁₈

1. 首謀者1名だけ	20.4 (21)	13.2 (10)	40.7 (11)
2. 2～3名	39.8 (41)	39.5 (30)	40.7 (11)
3. 4～5名	22.3 (23)	25.0 (19)	14.8 (4)
4. 6～9名	7.8 (8)	10.5 (8)	0.0 (0)
5. 10名以上	6.8 (7)	9.2 (7)	0.0 (0)

DK/NA	2.9 (3)	2.6 (2)	3.7 (1)
-------	---------	---------	---------

Q10-1 その首謀者のグループには、いつも首謀者と一緒について、手助けをするような人がいましたか？

1. いた	69.9 (70)	72.4 (55)	63.0 (17)
2. いなかった	10.7 (11)	7.9 (6)	18.5 (5)
3. 知らない、分からない	16.5 (17)	15.8 (12)	18.5 (5)
DK/NA	2.9 (3)	3.9 (3)	0.0 (0)

Q10-2 その手助けをする人は、その出来事に加担していましたか？ V₂₀

1. 加担していた	63.1 (65)	67.1 (51)	51.9 (14)
2. 加担していなかった	10.7 (11)	5.3 (4)	25.9 (7)
3. この出来事には加担していなかった (他には加担していた)	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)
4. 知らない、分からない	19.4 (20)	18.4 (14)	22.2 (6)
DK/NA	4.9 (5)	6.6 (5)	0.0 (0)

Q10-3 その手助けをする人の性別は？ V₂₁

1. 男性	27.2 (28)	26.3 (20)	29.6 (8)
2. 女性	43.7 (45)	46.1 (35)	37.0 (10)
3. 知らない、分からない	18.4 (19)	13.2 (10)	33.3 (9)
DK/NA	10.7 (11)	14.5 (11)	0.0 (0)

Q10-4 その手助けをする人の年齢は、その時いくつくらいでしたか？ V₂₂

1. ～ 6 歳	1.0 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)
2. ～ 9 歳	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)
3. 10代前半 (10～14歳)	35.9 (37)	44.7 (34)	11.1 (3)
4. 10代後半 (15～19歳)	10.7 (11)	9.2 (7)	14.8 (4)
5. 20代前半 (20～24歳)	9.7 (10)	5.3 (4)	22.2 (6)
6. 20代後半 (25～29歳)	8.7 (9)	2.6 (2)	25.9 (7)
7. 30代前半 (30～34歳)	7.8 (8)	5.3 (4)	14.8 (4)
8. 30代後半 (35～39歳)	6.8 (7)	7.9 (6)	3.7 (1)
9. 40代前半 (40～44歳)	1.9 (2)	1.3 (1)	3.7 (1)
10. 40代後半 (45～49歳)	1.9 (2)	1.3 (1)	3.7 (1)
11. 50代	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)
12. 60代～	1.0 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)
DK/NA	10.7 (11)	14.5 (11)	0.0 (0)

Q11-1 その首謀者のグループには、他人の情報を集めて、時機をみはからってデマを流す人がいましたか？ V₂₃

1. いた	36.9 (38)	39.5 (30)	29.6 (8)
2. いなかった	22.3 (23)	22.4 (17)	22.2 (6)
3. 知らない、分からない	35.9 (37)	32.9 (25)	44.4 (12)
DK/NA	4.9 (5)	5.3 (4)	3.7 (1)

Q11-2 そのデマを流す人は、その出来事に加担していましたか？ V₂₄

1. 加担していた	32.0 (33)	35.5 (27)	22.2 (6)
2. 加担していなかった	16.5 (17)	6.6 (5)	44.4 (12)
3. この出来事には加担していなかった (他には加担していた)	1.0 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)
4. 知らない、分からない	38.8 (40)	40.8 (31)	33.3 (9)
DK/NA	11.7 (12)	15.8 (12)	0.0 (0)

Q11-3 そのデマを流す人の性別は？ V₂₅

1. 男性	18.4 (19)	14.5 (11)	29.6 (8)
2. 女性	29.1 (30)	28.9 (22)	29.6 (8)
3. 知らない、分からない	38.8 (40)	39.5 (30)	37.0 (10)
DK/NA	11.7 (12)	17.1 (13)	3.7 (1)

Q11-4 そのデマを流す人の年齢は、その時いくつくらいでしたか？ V₂₆

1. ～ 6 歳	2.9 (3)	2.6 (2)	3.7 (1)
2. ～ 9 歳	1.0 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)
3. 10代前半 (10～14歳)	22.3 (23)	27.6 (21)	7.4 (2)
4. 10代後半 (15～19歳)	6.8 (7)	7.9 (6)	3.7 (1)
5. 20代前半 (20～24歳)	6.8 (7)	2.6 (2)	18.5 (5)
6. 20代後半 (25～29歳)	10.7 (11)	5.3 (4)	25.9 (7)
7. 30代前半 (30～34歳)	5.8 (6)	5.3 (4)	7.4 (2)
8. 30代後半 (35～39歳)	8.7 (9)	7.9 (6)	11.1 (3)
9. 40代前半 (40～44歳)	1.0 (1)	0.0 (0)	3.7 (1)
10. 40代後半 (45～49歳)	1.0 (1)	0.0 (0)	3.7 (1)
11. 50代	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
12. 60代～	3.9 (4)	3.9 (3)	3.7 (1)
DK/NA	29.1 (30)	35.5 (27)	11.1 (3)

Q12-1 その首謀者のグループには、首謀者たちの使い走りのような役目の人がいましたか？ V₂₇

1. いた	30.1 (31)	32.9 (25)	22.2 (6)
-------	-----------	-----------	----------

2. いなかった	33.0 (34)	31.6 (24)	37.0 (10)
3. 知らない、分からない	29.1 (30)	25.0 (19)	40.7 (11)
DK/NA	7.8 (8)	10.5 (8)	0.0 (0)

Q12-2 その使い走りの人は、その出来事に加担していましたか？ V₂₈

1. 加担していた	32.0 (33)	35.5 (27)	22.2 (6)
2. 加担していなかった	17.5 (18)	13.2 (10)	29.6 (8)
3. この出来事には加担していなかった (他には加担していた)	1.9 (2)	1.3 (1)	3.7 (1)
4. 知らない、分からない	34.0 (35)	30.3 (23)	44.4 (12)
DK/NA	14.6 (15)	19.7 (15)	0.0 (0)

Q12-3 その使い走りの人の性別は？ V₂₉

1. 男性	18.4 (19)	15.8 (12)	25.9 (7)
2. 女性	25.2 (16)	26.3 (20)	22.2 (6)
3. 知らない、分からない	38.8 (40)	34.2 (26)	51.9 (14)
DK/NA	17.5 (18)	23.7 (18)	0.0 (0)

Q12-4 その使い走りの人の年齢は、その時いくつくらいでしたか？ V₃₀

1. ～ 6 歳	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)
2. ～ 9 歳	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)
3. 10代前半 (10～14歳)	20.4 (21)	23.7 (18)	11.1 (3)
4. 10代後半 (15～19歳)	7.8 (8)	5.3 (4)	14.8 (4)
5. 20代前半 (20～24歳)	7.8 (8)	3.9 (3)	18.5 (5)
6. 20代後半 (25～29歳)	8.7 (9)	5.3 (4)	18.5 (5)
7. 30代前半 (30～34歳)	5.8 (6)	3.9 (3)	11.1 (3)
8. 30代後半 (35～39歳)	6.8 (7)	6.6 (5)	7.4 (2)
9. 40代前半 (40～44歳)	2.9 (3)	1.3 (1)	7.4 (2)
10. 40代後半 (45～49歳)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
11. 50代	1.9 (2)	2.6 (2)	0.0 (0)
12. 60代～	1.0 (1)	1.3 (1)	0.0 (0)
DK/NA	33.0 (34)	40.8 (31)	11.1 (3)

Q13 その出来事について、下の枠内に、少し具体的に説明してください。個人の固有名は出さないでください。(例：AさんがBさんと共謀し、人のウワサに詳しいCさんに、「山田さん(仮名)は嘘つきだ」というデマをサークル内に流させて、仮名・山田さんを追いつめて辞めさせた、等) V₃₁

Q14 その首謀者グループが、何かのきっかけで、今度は悪意を受ける立場に変わる、といった出来事がありましたか？ もしあった場合、その出来事についても、これと同じように、その詳細を、もう一つのアンケート用紙にご記入ください。 V₃₂

1. あった	23.3 (24)	22.4 (17)	25.9 (7)
2. なかった	26.2 (27)	26.3 (20)	25.9 (7)
3. 知らない、分からない	34.0 (35)	35.5 (27)	29.6 (8)
DK/NA	16.5 (17)	15.8 (12)	18.5 (5)

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。